

# がん検診、正しく選んでいますか？

国民の2人に1人が‘がん’になり、4人に1人が‘がん’で亡くなっています。しかし、がん検診を受けることで、がんによる死亡を今よりも減らすことができます。



生活習慣に気を付けることで、がんのリスクを減らすことができますが、すべてのがんを防ぎきることはできません。

そのため、**がん検診**を**適切な年齢**、および**適切な受診間隔**で受けて、がんを早期に発見し、適切な治療を受けることが重要になります。がん検診に関する理解を深め、正しい知識を持って適切に受診しましょう！

## 指針で定めるがん検診の内容（表1）

| 種類          | 検査項目                                       | 対象者   | 受診間隔          |
|-------------|--|-------|---------------|
| 胃がん検診<br>※1 | 問診に加え、胃エックス線検査又は胃内視鏡検査のいずれか                | 50歳以上 | 2年に1回         |
| 子宮頸がん検診     | 問診、視診、子宮頸部の細胞診及び内診                         | 20歳代  | 2年に1回         |
|             | 問診、視診、子宮頸部の細胞診及び内診                         |       | 2年に1回         |
|             | 問診、視診、及びHPV検査単独法<br>※2-1                   | 30歳以上 | 5年に1回<br>※2-2 |
| 肺がん検診<br>※3 | 質問（問診）、胸部エックス線検査及び喀痰細胞診                    | 40歳以上 | 年1回           |
| 乳がん検診       | 質問（問診）及び乳房エックス線検査（マンモグラフィ）<br>※視診、触診は推奨しない | 40歳以上 | 2年に1回         |
| 大腸がん検診      | 問診及び便潜血検査                                  | 40歳以上 | 年1回           |

※1 当分の間、胃部エックス線検査については40歳以上に対し年1回実施可。

※2-1 HPV単独法は厚生労働省が示す実施体制が整った自治体でのみ実施可能。

※2-2 HPV陽性にて罹患リスクが高い者については1年後に受診。

※3 喀痰細胞診については原則として50歳以上の重喫煙者（喫煙指数600以上の者）のみ。



### ～補足～

※乳がん検診では家族歴（血縁者・親族）がある方、精密検査を受けたこと（生検したことがある）がある方は、20代からでも乳腺超音波検査をおすすめします。乳腺超音波は毎年の検診でも問題ありません。40歳以上の方はマンモグラフィと乳腺超音波の両方の検査をおすすめします。

※がん検診の対象者は無症状でそれに関連する病気のない方です。専門医でのフォローアップ（診療）を受けている方は、がん検診ではなく、引き続きフォローアップを受けていただくことが大切です。いつフォローアップをやめて検診を受けてよいかについては担当医と相談することが必要です。

## みなさんの受けている**健診**と**検診** 目的に違いがあります。賢くお得に受診しましょう

### 健診とは・・・

**病気の予防**を目的に体が健康でいるかどうかを確認すること

#### 定期健康診断

職場で定期的に受ける  
法律で定められているもの



#### 特定健康診断

メタボリックシンドローム予防のため  
(メタボ健診)



### 検診とは・・・

早期発見を目的に**特定の病気**を見つけるために行うこと

#### 対策型検診

対象集団全体の死亡率を下げる目的

基本は5種類のがん検診

市町村が実施：**公費助成あり**



基本は 胃がん 大腸がん 肺がん  
乳がん 子宮頸がん



#### 任意型検診

個人の死亡率を下げる目的

医療機関が同時に実施：**全額自己負担**

例) CTや乳腺MRIなど



健診は必ず受けましょう。

検診は年齢・性別・家族歴・生活環境などから  
自分にあったものを選ぶとよいです。

❗ご自身の加入している健康保険組合や契約対象年齢により  
ご案内内容は異なります。ご確認ください。

